

検証

崩拓銀

<2> 10.10.7

にも似た熱弁だった。

河谷慎昌頭取から極秘の指しを受け、武馬鋭称副頭取は一人道銀に佐藤讓治副頭取を訪ねた。昨年三月五日、大通公園をはさんで拓銀と道銀は直線でわずか約百メートルだがライバルの両行の幹部が行き来するのは異例のことだった。

武馬は、海外から撤退し、

佐藤は「うちだって北洋銀に攻められ、苦労しているの

合併打診

二人はゴルフや会食で顔を合わせることはあっても、仕事で会ったのはこの日が初めて。しかし、二人の役回りには共通点が多い。武馬は河谷の懐刀として、行内外の水面の調整を一手に引き受けていた。道銀生え抜きの佐藤も、元大蔵省証券局長の藤田恒郎頭取が進める強引ともいえるリストラへの行内反発を抑えるためには欠かせない存在だ。

二人はゴルフや会食で顔を合わせることはあっても、仕事で会ったのはこの日が初めて。しかし、二人の役回りには共通点が多い。武馬は河谷の懐刀として、行内外の水面の調整を一手に引き受けていた。道銀生え抜きの佐藤も、元大蔵省証券局長の藤田恒郎頭取が進める強引ともいえるリストラへの行内反発を抑えるためには欠かせない存在だ。

五階の役員応接室。武馬は「株価にはお互い苦勞しますなあ」としばしばよまやま話をした後、意を決したようにソファから身を乗り出し、こう切り出した。「うちと合併する気はあり

は同じですよ」と頭取会談の併打診にもかかわらず、佐藤くられたことに、武馬は胸をな

の反応は予想以上に冷たかった。どんな条件を示しても大

きな姿勢に、喜ぶよりも拍子

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

頭取会談 一度で合意



拓銀マン 手行は興味を抱かない。それとしてのほど、拓銀の財務は悪化して自覚と誇り、がそこにあった。

都銀最下位の拓銀が道銀との合併を考えたのは、実はこれが初めてではなかった。一九八〇年代後半から九〇年代に滞在していた三月十五日初頭にも、中核部で検討した。夕、場所は目黒区のエーステ

両頭取は二人きりで向かい合った。「こういう内容ではど

うでしようか。藤田は、河谷に一枚のメモを差し出した。

八合併期日は九八年四月一日をめぐとする。行名は北海

道銀行。河谷拓銀頭取が会長に就任し、藤田道銀頭取が新

業務・資本提携を模索し、非銀行の頭取になる。それが意外にも合併合意書の

の素案だった。河谷は、合併に対する

この時、その後の合併交渉の「結末」など、だれ一人予想できた者はいなかった。

敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」

に敬称略、肩書は当時「拓銀問題取材班」